

アイラ島再び（その1）

佐伯 順弘（岐阜県）

2016年4月。その頃、若干気持ちが落ちていた。定期異動が鉛のように重い悲しみを連れてきていた。所詮将棋の駒にすぎないのだから、不本意な転属は当然のことである。捨て駒という言葉があるが、それは状況を打破するための作戦であり、最終的な勝利を得るためならば何の文句も言うまい。エースを勝たせるためならば、喜んでサクリファイスとなろう。それが自分の勝利だと思えるからだ。しかし、そうでない状況、つまり切ること自体が目的の場合は何ともやりきれない。自由契約にしたいのだが、特に不祥事を仕出かしていない公務員を解雇するのは難しい。

給特法の問題点について指摘したり、部活動と称する時間外労働を強制することについて問題提起をしたりしただけなのだが、どうもそれが気に入らなかつたらしい。試験を受けてまで、ここにいたいと願い、研修を受けてまで、ここに残りたいと願っているのだから、どのような仕打ちを受けても我慢しろということか。自分の置かれている異常な状況についての疑問、質問は一切認めない。意見するなどもってのほかということか。「部活動は業務である以上やるのが当たり前。」という職員も少なくないが、業務ならばなぜ適正な残業手当は支払われないのか、なぜ日常的に勤務時間を越えて業務に従事しなければならないのかについて考える者はいない。

（2019年末には給特法が改正されたが文科相も認めているようにこれ自体には教員の奴隷労働を改善する効果はない。根本的な解決策は明らかなのだが、これまで奴隷として使っていた資源を手放す教育行政及び保護者などいない。）

そして、面倒くさい奴はどこか行けと・・・。

いや、このクソな日常にも喜びを見だし、希望を見だし現実に目を背けて生きていくのが虐げられた者の生き方だ。

だから、現実逃避することにした。現状に目を向けないことは何と楽なことか。人間どんなに苦しい状況に置かれてもそれを認識できなければ幸せな

のだ。わざわざ目を開かせてもらうには及ばない。死ぬまでごみ溜めで言いずり回っていても、真実に目を向けなければ楽園なのだ。そして、息ができなくなる前に息ができる場所に退避し、病んだ精神を癒すことにした。

重い話題から入ったが、そんなわけで、ああ、旅に出たいなあと思った時には、既に旅行の計画が瞬時に立案されていた。瞬時にと言っても0.125秒くらいはかかったかもしれない。

「そうだ、アイラ島行こう。」しかし、既に相当な深刻さで精神を蝕まれていたため、勢い余って、夏休み海外旅行2本立て、ダブルハッターを立案してしまった。アイラ島のあるスコットランドと高雄がある癒しの島台湾である。

6月13日にはロンドンまでの航空券を確保し、ロンドンからグラスゴー、グラスゴーからアイラへのLCCを次々と確保していった。そして、グラスゴーとアイラ島ボウモアの宿も確定してしまった。学生の頃の旅はホテルの予約などせず、臨機応変に宿を確保していた。ダメなら野宿も辞さずという構えていたが、最近は時間と自由を売って生業としていたため（極めて私的な旅行でさえ、旅行計画書を提出し承認を受ける必要がある。）、旅に使える時間が短く、仕方なくホテルを予約しているのだ。

希望は絶望的な状況を楽しませるエネルギーである。敵地に潜入した工作員のごとく、本心を悟られず、笑顔で業務をこなし、精神が崩壊しないように時々息継ぎ（冒険学校とかソロキャンプとか）をしながら、その時を待つ。

◆2016夏旅 I 台湾・高雄へ

23JUL2016—25JUL2016 2泊3日

あまりにも短い時間だったが、十分癒された。



台湾についての詳細は、またいつか語ろう。帰国から10日ほどして、2012年以來4年ぶりのアイラ島へ向かう。スコットランドへは3回目、アイラ島へは2回目の訪問である。前回、訪れることのできなかった蒸留所に少しでも行きたいと思う。

◆2016夏旅Ⅱスコットランド・アイラ島へ

DAY1 (8AUG2016) 名古屋→香港

1100 自宅発、1332 中部国際空港着。

1335 チェックイン。CX539 1610Dep

マシンでチェックインすることになっていた。機械は味気ないと思いきや、美しいお姉さんがサポートしてくれたので、そうでもない。それにしても空港に到着して、足を止める間もなくチェックインできるとは、便利になったものだ。間髪を入れず、両替。どこで両替するのがお得か考えたが、それほど危機的状況ではないので安心できる日本で両替。JP¥49300→GBP340。1ポンドが約145円とあったところ。20ポンド札が約3000円と認識する。ここで10ポンド2000円計算としておくと、無駄遣いはかなり減る。1400 昼食。海老フライ主役の名古屋定食。

1510 出国審査。驚きの光景を見る。アラブ系の裕福そうな幼児がイミグレを易々と突破しているではないか。背が低すぎて見えないのだ！

1640 出発予定時刻は1610であり、とくに搭乗を済ませているべき時間ではあるが、その気配もない。そして、機材到着が遅れて出発は22時だと！そして、到着は25時である。香港のホテルは空港に隣接したちょっと豪華なのを予約したのだが、これではホテルを楽しむどころではない。寝る時間も僅かではないか。最初からトラブルである。だか、驚きはしない。旅にトラブルはつきもの、そうでなければ旅ではない。寧ろ、それを楽しんでいる自分がいた。

1733 飲み物が配布される。2215 発に変更される。既に6時間ほど遅れているのである15分くらいどうということはない。

1830 夕食配布。わっぱ飯(そぼろごはんみたいな弁当)+水。想定外に旨い。やはり、食べ物配布作戦は有効である。元マイラについてはいいが、さらに優しい気持ちになった。高級ホテル滞在時間が短くなったとしてもそれはそれで仕方ないのだ。キャセイの人々がわざと送らせているわけではない。

増してや、ここにいるグラウンドスタッフが悪いわけでもない。頭を下げ、丁寧に食糧を配布しているスタッフの皆さんを応援したくなるくらいだった。2150 やっとボーディングの列ができ始める。2215 テイクオフ。ある意味定刻である。2315 寝る前に食うのはよろしくないが、機内食。



2550→香港現地時間 2450 到着。(以後香港時間)

入国審査はカードを入れてくれるだけ、スタンプ押ししてほしいのに、最近はこのようが増えているらしい。スタンプを押しもらう方法もあるらしいが、それを探索するほどの気力も体力もないので、ホテル探索にすべての電源を回すことにした。空港の建物から出て、ホテルを探す。暫し探索の後、「富豪機場酒店」発見。

2525 ホテルチェックイン。カードキーを深く差しこまないことが原因で部屋の電源が入らず、スタッフに迷惑をかける。申し訳ない。

2610 就寝。起床まで時間はないが、暫し高い部屋で休息を取る。起床が心配で眠りは浅いはず。



DAY2 (9AUG2016) 香港→ロンドン

0645 起床。アラームより先に目覚める。眠りは浅かった。ま、そういうものだ。排便身支度等々。

0710 チェックアウト 1353HKD⇔18084JPY

そして、驚愕の事実を知る。フロントから空港まで極めてなめらかで段差のない通路があったのだ。空港ホールまで所要時間3分。



0735 出国審査。やはりスタンプも何もなし。通過所要時間約 10 分。出国はこんなもんか。

0750 朝食。サンドイッチ+水 82HKD

0850 搭乗。着席。CX257 0910Dep.

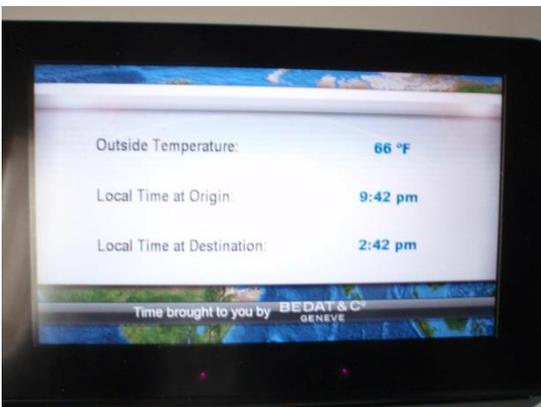
0930 いつの間にか離陸。最近離陸の時になぜか眠くなる。離陸の時の加速度が $F=ma$ を実感できて楽しいのに……。残念である。

1022 朝食。1536 昼食。後は映画を観て過ごす。こんな時でも英語の勉強である。決して娯楽ではない。日頃の鍛錬こそ成功への王道である。

エクストラクション、007 スペクター、トランスポーター・リフューズドなど、

2120 もうすぐ到着とのアナウンス。時計をロンドン時刻に合わせる。7時間戻して 1420。

(以後ロンドン時間)



1442 タッチダウン。1530 イミグレ通過
1540 ここでも両替してみるが、完全に失敗。
50000JPY⇔309.18GBP!!30GBP も少ない。
両替情報：台湾は台湾の空港の方がレートが良いようだが、イングランドは日本の空港の方がよいら

しい。いつもぼんやりしているの、すぐ忘れてしまう。今回は深く記憶に刻んでおく。



1606 心はロンドンっ子なので、当然交通カード「Oyster」を持っている。さっと改札を通過し、キングスクロス駅へ向かう。空港から都心まで約1時間。もうサブウェイも慣れたもんさ。



1711 キングスクロス着。1722 ロンドンの定宿 Generator hostel にチェックイン。ぼんやりする間もなく、明日の鉄道情報を探索しに出かける。乗り場、時刻表、そして切符も買う。LGW（ロンドンガトウィック空港）行きのチケットは 10.33GBP。1840BK。どこの国でも安定のうまさ。体に悪かろうが、心の平穏が大切だ。2000 宿に戻り、明日の動きをシミュレーションする。地図や通過経路、入口、各ポイントの通過時間など秒単位でイメージする。(つてのは言い過ぎ。そんなことするわけない。)

それでも、いつ出勤の指令が発令されても対応できるように荷物は常にまとめておく。緊急出勤などあり得なくても、そういう心構えで生きていきたいのである。それが敵地に潜入した作員の習性である。と、かんだところでバスルームへ。その壁に貼ってあったのは……。



小さくて見えないかもしれないが、なかなか笑える。こういうセンスって素敵っ！

2200 どうせ深夜にクラブ帰りの若者がガシャガシャ帰ってくるに決まっているので、素早く寝てしまおう。少しでも脳を休めておかねば。

DAY3 (10AUG2016) ロンドン→アイラ島

0520 起床。来た時よりも美しく片付ける。しかも極力音を立てずに。窓から漏れる僅かな灯りを頼りに行く。この程度の隠密行動は基本である。同室の人々の迷惑になるので、最後に忘れ物点検の時だけヘッドライトをつけ、すぐ消す。

洗顔、歯磨き、排便を素早く済ませ、パッキングを確認。チェックアウトはカードキーを返すだけ。0552 起床から 30 分で Hostel 出発。



0600 セントパンクラス駅に到着（既にこのあたりの地理には詳しくなっていると思うが、キングスクロス駅の隣である。）掲示板に乗り場が明確に示されていて安心する。



プラットフォーム A である。

0620 定刻出発。0715 約 1 時間で LGW-AP 到着。到着した南ターミナルから北ターミナルまで無料の交通機関で運ばれる。



（列車の姿は全く見えず、エレベーターの扉みたいなのが開くとそこに乗り込む。しばらくして扉が開くともう到着。横に動くエレベーターのようなもの。列車に乗っている気がしない。）

0730 とりあえず時間に余裕があるので、朝食。サラダにカプチーノ。これがまたうまい。



しかし、まだアイラ島には到着しない。（続く）